

中山間地域の特色を活かした雲南市山椒産地化への取り組み

1. 雲南市山椒産地づくり協議会

【設立】 R2年7月設立
 【協議会員】 7経営体(R7.3 現在)
 【総面積】 6.1ha

種類ごとの収穫時期

山椒の種類	面積	4月	5月	6月	7月
アサクラ山椒	4.6ha			■	
ブドウ山椒	1.3ha				■
花山椒	0.2ha	■			

2. 取組の経過及び概要

(1)山椒に取り組みモデル経営体の育成

雲南市で山椒の加工に取り組む業者に対して、需要に
 応えられていない状況。このた
 め、産地創生事業を活用し、
 優良系統台木の苗木や自走
 式草刈機の導入、先進事例
 調査等を実施しながら、山椒
 のモデル経営体を育成中。



優良系統台木の苗木

(2)安定生産・省力化栽培技術の実証

全国的に山椒栽培に関す
 る知見がほとんどないため、
 農業技術センターと連携し
 て、**安定生産・省力化栽培
 技術を実証することで山椒
 栽培の手引きを作成**。手引
 きに基づいて栽培講習会を
 実施。



せん定講習会の様子

(3)乾燥調製・出荷体系の整備

アサクラ山椒は、地元の加工業者へ生果で出荷。
 ブドウ山椒は、JAしまね雲南地区本部が乾燥を行
 い、県外の加工販売業者へ出荷を開始。

調製作業について、先進地等の視察から機械化
 に向けて情報収集。R7出荷分から一部作業を機
 械化の予定。



アサクラ山椒



ブドウ山椒(生果と乾燥果)



3. 取組の成果

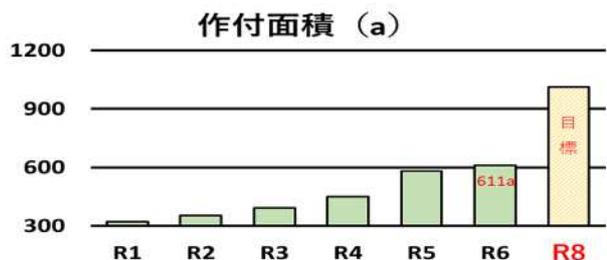
(1)集落営農組織の経営多角化品目として導入

作業時間は、収穫期に集中するものの、**水稲基幹
 作業と被らず、高い収益性も見込める**ため、集落営農
 組織の多角化品目として有望。また、収穫物が軽量
 で、高齢者・女性でも取り組みやすいため、経営の多
 角化を目指し、**8組織で栽培中**。

	R2	R3	R4	R5	R6
新規栽培経営体数	4	6	9	13	14
うち集落営農組織	3	5	6	8	8

(2)作付面積が緩やかに拡大

集落営農組織を中心に新規植栽、規模拡大を働き
 かけ、**作付面積が徐々に拡大**。



【経営試算】 (成園、10aあたり)

	アサクラ山椒	ブドウ山椒※
出荷量 (kg)	500	150
労働時間 (h)	331	505
所得 (千円)	629	1,486

※乾燥出荷した場合

山椒は成園化するまでに8年程度要するが、成園
 時の経営試算では高収益を見込む。

代表者から一言

雲南市の山椒は、生産量がまだまだ少ない状況で
 す。協議会で、栽培技術と情報を共有し、作付面積
 の拡大と生産性を向上させ、産地化を目指します。

若槻 雅人 いずも八山椒有限会社 代表取締役

4. 課題と今後の取り組み方向

- (1) 山椒生産者確保に向けた雲南全域への普及
- (2) 水稲+白ネギ+山椒を組合せたモデル法人の育成
- (3) 低樹高栽培技術の確立
- (4) 優良系統苗木の安定供給体制の仕組みづくり
- (5) 山椒栽培手引きのバージョンアップ